

都道府県別賞一等

不安を消し安心させてくれた生命保険

愛媛県 宇和島市立城北中学校 三学年

本多 梨乃

「生命保険」と言われても、今までは全く気にもとめることもなく、考えることもなかった。中学生の今の私には無関係だと思っていたのだろう……。

しかしそんな時、私は中学一年の春から、四カ月程入院をした。入院をする前、タオル、パジャマなど沢山の量をお母さんと買い物に出かける。コロナ禍ということもあり、面会も限られていたため着がえの下着などの量も私が考えているよりはるかに多くの買い物をした。

これから入院することに不安で一杯だったのに、入院準備をしているお母さんの横でお金のお金が脳裏に浮かぶ……。

そして入院してすぐ、私のことを心配し個室を選んでくれ過ぎていく中で、私は個室と大部屋で料金が違うことに気付いた。

それと同時に、不安が走った。最初は一、二カ月と言っていた入院だったが、延びるであろうと自分でも分かっていた。退院したい、迷惑をかけている。シングルマザーとして毎日元気に、いつもお金は気にしなくて良いのよと言っていたお母さんに申し訳なく、お母さんに連絡をした。

その内容は全てお金に関してのことだった。「お母さんごめんなさい。お金大丈夫？大部屋に移るよ。退院してがんばるからもう入院しなくても良いよ……。」と。入院生活のことを話すお母さんとは違って私は何回もお金のことを聞いた。

その時だった。

「生命保険ってわかる？」

とお母さんから話があった。私の場合は日額五千円の保険に加入していた。

思わず計算した。そして不安だった気持ちが消えていったのを今でもはっきり覚えている。

入院中、ただでさえ不安で怖いのに、お金のことを気にしている時はもっと不安だった。

その中で生命保険とは……と考えるようになり、私と母を救ってくれた保険に心の底から感謝をした。

元気だから大丈夫。入院なんてしないから大丈夫。毎月、生命保険にかけるお金がもったいない……など、それぞれ意見もあると思う。

今の私はとっても元気だけれど、今保険にあらたに加入することも、増額す

## 第61回中学生作文コンクール

することも難しい。退院後も定期的に病院に通院しているため、完治して数年たてば、また見直すことができる。その日を私は待っている。

だからこそ、元気な時にしっかりと考えてほしい。自分とそして大切な家族のために、生命保険は必要なのだ。

私とお母さんを助けてくれた保険。安心させてくれた保険。お金のことを考えずに、治療に専念させてくれた保険。

不安を消し、安心を与えてくれ、みんなを守ってくれる、それが生命保険なんだと気付けた。全く関係ないと思っていたけれど、中学生の私に保険をしつかりかけてくれていたお母さんに感謝している。元気になったら次は、お母さんと一緒に保険の見直しをして安心させてあげたい。

生命保険とは、イコール笑顔を守ることなのだ。